

No.2027

9月25日例会 プログラム 「日本のことわざ」	緋田 秀雄君
10月2日例会 プログラム 「職業奉仕月間に因んで」	職業奉仕委員会 大西正高委員長
9月25日のメニュー ・鶏肉の蒸し焼き・海老とキスの変わり揚げ・小鉢・信州そば・キノコご飯・コーヒー	

前回（9月18日）例会記録

出席報告	会員総数	33名	出席者数	24名	欠席者数	9名	出席率	72.73%	前回補正率	87.88%
	前回補正者	緋田君 東川君								
	欠席者	藤田君 林君 井上君 三谷君 三宅(孝)君 小野君 白石君 安江君 山田(次)君								

来 訪 者 齊藤 章夫様 (NPO 法人スマイルネット玉情協)玉野みなと芸術フェスタ 2009 実行委員会

会長挨拶

皆様、ようこそお出でくださいました。本日のゲストをご紹介します。NPO 法人スマイルネット玉情協の齊藤章夫様です。ようこそいらっしゃいました。後程「玉野みなと芸術フェスタ」の件でお話を頂きます。

さて、明日から 5 連休という方も多いでしょうが、シルバーウィークが始まります。語源は映画界が 5 月に定着させたゴールデンウィーク(金)に対しての(銀)からとか、連休に敬老の日が含まれるためシルバーシートから取られたとも言われます。平成 13 年のハッピーマンデー制度により敬老の日が 9 月第 3 月曜日とされ本年は 21 日(昨年 15 日)、秋分の日が 23 日、22 日が国民の休日となる結果、明日から 5 連休となりました。只、敬老の日が第 3 月曜日のため今回のような大型のシルバーウィークは 2015 年まで無いということです。それから、秋分の日ですが 9 月 23 日に決まっている訳でなく、地球が秋分点を通過する日という事で最近では 1979 年が 9 月 24 日、今後は 2012 年 9 月 22 日が秋分の日という事です。宇宙の神秘を感じますが、この連休秋の夜空を見て頂きながら日頃の疲れを癒して頂きたいと思います。

来 訪 者 挨拶 齊藤 章夫様 (NPO 法人スマイルネット玉情協)玉野みなと芸術フェスタ 2009 実行委員会

玉野 RC の皆様には我々芸術フェスタに対しまして大変なご協賛を頂きまして大変有難く思っております。芸術フェスタは 2003 年からスタートして今年で 7 年目を迎えます。今年は宇野港築港 100 年を迎えますが、100 年前の 9 月 25 日に竣工式が執り行われたと聞いており、この日を宇野で行う芸術フェスタのスタートの日に決めました。資料を配らせて頂きましたが、第 1 期として宇野港ものがたり「ウノイッチョウダイ」を 9 月 25 日(金)～9 月 27 日(日)午後 4 時～午後 8 時に宇野港銀座商店街で行う予定です。また、第 2 期として 11 月 1 日(日)～3 日(火)に今年で 2 回目となる山田地区での芸術フェスタも予定しており、今回は創作狂言を演じることになっております。是非皆様のご来場をお願い致します。



幹事報告

- ・ ロータリー財団委員会の島田委員長よりポールハリスへのご寄付を頂きました。ご協力ありがとうございます。
- ・ RI より「人類のために活動しますV」という広報活動のための DVD、CD のセットが届いております。
- ・ 第 29 回オール岡山ロータリアンテニス大会の案内が届いております。

日時：平成 21 年 11 月 3 日(火)9:30～ 場所：岡山県総合グラウンドテニス南コート

- ・ 岡山城ロータリークラブの創立 20 周年記念正秋バンドふれあいフェスティバルのパフレット及びチケットを頂いておりますのでご希望の方はお申し出下さい。

日時：平成 21 年 11 月 15 日(日) 場所：岡山コンベンションセンター

- ・ 岡山東ロータリークラブより「小沢昭一講演会」の案内チラシが届いております。入場料は無料ですが整理券が必要ですので行かれる方はお申し出下さい。

日時：平成 21 年 10 月 31 日(土) 場所：岡山市民会館

- ・ ハイライトよねやま 115 が届いております。
- ・ MOA 美術館児童作品展実行委員会より協賛金のお願いが届いております。
- ・ 他クラブ週報、例会変更通知は回覧させていただきます。

スマイル・ボックス

- ・ 齊藤 章夫様よりスマイル。
- ・ 松尾君、島田君一斉藤様、お久しぶりでございます。ようこそいらっしやいました。
- ・ 岸君一インシェーションスピーチを聞いていただき有難うございます。
- ・ 東川君一前回欠席。岸本副会長にお世話になりました。本日早退します。
- ・ 三宅(照)君一早退します。

プログラム 「インシェーションスピーチ」 岸 啓二君

三友不動産㈱の岸でございますが、自己紹介に替えて、最近感じたことを話させて頂きたいと思っております。それは、「人の引き際は、つくづく難しいものだな」ということです。私は今年の 8 月で満 61 歳になりました。したがって、所謂世間でいうところの定年年齢は既に超えています。定年が近づいた昨年春頃から会社生活における「自分の引き際」をどうすべきかということを考えるようになりました。といいますのは、数年前に法律が変わって、厚生年金受給年齢に到達するまでは、定年後も「再雇用」とか「雇用延長」とかいふ形で、企業は働く人を雇用しなければならなくなり、それに沿って、三井造船も再雇用制度を導入したため、定年後どうするかという問題が出てきた訳です。自分としては「潔く引退しよう」と思いながらも、「年金が受給できないのでは生活が困るな」という気持ちが錯綜しましたが、最終的には「引退しよう」という気持ちに至りました。その理由は、マラソンに例えますと、定年到達をゴールと認識し、ゴールすると同時に倒れるぐらいの気持ちでペース配分しながら走ってきたのに、ゴール間際で、「ゴールはまだ 4km 先です」といわれても、もうスタミナは残っていないので、無理だというものでありました。もし走り続けるのであれば、もう一度覚悟を決めて、自分に鞭を入れ直さぬと、精神的に無理という状況でしたから。この仕組みは、働く人にとっても会社にとっても、一見ハッピーなように見えますが、人の意識が追いついてこない、問題になるように思います。給料が大幅に減ってヤル気が出るでしょうか。後輩が自分の上司であった先輩を使えるでしょうか。会社に残る限りは、気持ちを切り替えて、若かった頃のようにある領域の仕事を、担当者として割り切ってやっていけば良いのは分かっているのですが、殆どの人はこの割り切りが難しいようです。割り切れないなら、再雇用を拒否して会社を辞めるしか道はないのですが。

私の世代「団塊の世代」が再雇用者として社内に溢れ始めており、定年後も会社に残って当たり前になってきましたが、一方で、意識改革がうまく進んでいるとは言えません。それだけでなく「団塊の世代」の我々は数にものを言わせて、いつの時代も幅を利かせて、あたかも自分達の常識が社会や会社の常識であるがごとく振る舞い、会社の中では、ある意味で一大勢力を形成していました。「自分達が中核的存在にいるから会社は成り立っている」、「後輩は頼りなくて任せられない」という思い上がった声もよく聞きました。そういう層だけに、なかなか気持ちの切り替えが難しいのでしょうか。いつの時代も、先輩から見ると「後輩は頼りなくて任せられない」という頼りなさが払拭出来ないものかもしれませんが、過去から連綿と、後輩に道を譲って、それでも組織は成り立っていた訳ですから、なんとかなるのだと思います。

「人間は引き際は難しいものだ」と言いますが、本当にその通りだと思います。政界、経済界のトップを見ていると、つくづくそう思われることがあります。上の立場に立つ者は自分でよほど注意をしないと、下の人達は決して「そろそろ勇退して頂きたい」とは言いませんし、「まだまだ元気ですから、活躍してくださいよ」と言ってくれるのが普通です。この言葉は時に、いや殆どが、心にもない言葉ではないかと思えます。勿論、気力・体力には個人差があり、画一的に一定年齢が来たからといって引退しなくても良いのかもかもしれませんが、それでも自分なりに世間の動きも注視し、自分を客観的に見つめれば、所謂「老羞をさらす」とか、「老害」と陰口をたたかれずに、「深い引き際」を持てるのではないのでしょうか。

引退後をどう過ごすかは、正直言って、本当に難題だと思います。地方都市では、地域社会が形成されていて、その気になれば、老後も地域社会の一員として、生きがいの持てる生活を送れそうに思います。しかし、都会では、男にとって、家は仕事生活のためにパワーをつけたり、疲れを癒す場所であって、地域社会との関係は極めて希薄であります。したがって、大半の人は引退後から同種の人達と地域社会を作り始める努力をするしかありません。もしくは、テレビ番組の「人生の楽園」というのがありますが、田舎に転居して第二の人生を始めるといふことになろうかと思えます。何れにせよ、仕事人間であった者には、キツイことであり、努力を要することになります。私も何れはそのような難題に直面していくこととなりますが、現役の引き際だけは、潔くありたいと思っております。

